

カリタス大船渡ベース 寄り添うところ、これからも



大船渡市 震災直後



大船渡市 最近の様子



3

2023

発行所
大阪府中央区玉造2-24-22
カトリック大阪大司教区
広報委員会
郵便番号 540-0004
TEL (06) 6941-9700(代表)
TEL (06) 6946-3223(直通)
FAX (06) 6946-3224(直通)
E-mail: jiho@osaka.catholic.jp
編集 広報委員会
発行人 前田万葉

本紙「点訳版」「音訳」
あります。〈無料〉
※ご希望の場合は
下記まで申込み
「点訳版(点字本)」
時報 ☎06-6946-3223(直通)
☎06-6946-3224(直通)
「音訳(テープ・ディジー)」
山口さん ☎0798-34-4228

- ☆ 城皇学園創立70周年ミサ
- ☆ 教区宣教師牧評議会
- ☆ 戻りつつあるクリスマス行事
- ☆ 司牧者から若者たちにこの一冊
- ☆ コラム「兄弟の皆さん」
- ☆ ラジオ「信仰の時間」酒井淳神父
- ☆ イエスにならう生き方を求めて
- ☆ カキエムの学び
- ☆ 生々 難民移住
- ☆ 「時報」原稿・資料等の締切は前々月末です。

「時報」原稿・資料等の締切は前々月末です。



12回目の3・11を迎える今年。カリタス大船渡ベースのベース長、菅原圭一さんから現地の近況を伺った。

東日本大震災から12年が経過しました。カトリック大阪教会管区の支援を頂いて、震災の翌年、2012年1月、カリタス大船渡ベースが完成し、活動を始めました。全国から、遠く関西からも大勢のボランティアの方々も駆けつけてくださり、被災した方々にさまざまな形で寄り添ってくださいました。そして今でも献金や支援物資を送ってくださり、被災地のことを心に留めてお祈りし続けてくださっている方々に心から感謝したいと思います。

仙台教区の平賀徹夫司教様(当時)は震災直後の2011年5月に「新しい創造基本計画」を発表なさいました。その中で司教様は、被災地と被災した人びと、特に「谷間」に置かれた地域やそこに暮らす人び

とに寄り添うことを望まれました。そしてその計画は今、エドガル・ガクタン司教様が引き継がれ、現在に至っています。

10年が経過した頃、新型コロナウイルス感染症がまん延し、ボランティアの受入れを休止して現在に至っています。スタッフだけではできる活動を試行錯誤しながら継続しています。一時は訪問活動とサロン活動を全て休止し、スタッフは訪問していた方に電話をしたり手紙を書いたりして、安否の確認を続けました。全国に声をかけて、絵手紙を描いて送っていたとき、地域の方々に郵送したりしました。コロナ禍の状況によって、少しずつ休止していた活動を再開し、訪問活動は玄関先までですが、被災地の方々は「忘れられていない」ことをとても喜んでくださいます。その他、買物送迎、手芸サロン、スマホ教室、英語学習会、元気度アップ教室(ラフター・ヨガ)などを再開しています。特に高齢者のためのスマホ教室は毎回大好評で、とても盛り上がっています。

大船渡市は復旧復興しました。防波堤は完成し、以前より頑丈なものになりました。防潮堤も完成しつ



大船渡ベースで現地案内

つあります。街から海が見えなくなったのは残念ですが、安心できる安全な街になりました。仮設住宅はなくなり、災害公営住宅もすべて完成しました。大船渡市が計画されたほとんどの建物は完成しました。陸前高田市は津波伝承館、道の駅、スポーツ施設、市役所、市立博物館などが次々と完成しているところです。復興道路の三陸沿岸道路も完成して、仙台市と青森県八戸市が一本の道路で繋がりました。ところが、復旧復興のための土木・建築に携わってくださった方々が次第に被災地を離れ、もとの少子高齢化の進む寂れた街に戻っていくのが心配です。きれいに整備された街で、これからどう活性化していくか、それが地元の私たちに課せられた大きな課題です。

震災から歳月が流れ、被災した方々も例外なく高齢

化して、ベースや教会に来ることが困難になっていきます。高齢化やコロナ禍で引きこもりになってしまわぬよう、訪問して声をかけて安否を確認し、元気をだしてもらえようように心がけています。

教会も、司祭と信徒の高齢化や減少を乗り越え、そして言語や文化の違いを乗り越えて、新しい教会になっていかなければならないと感じています。

昨年の10月13日に開催された、大船渡市市政施行70周年記念式典において、東日本大震災からの復旧復興に多大な貢献をしたとして、大船渡市から感謝状を授与されました。とても名誉なことです。これもひとえに支えてくださった皆様方のおかげです。本当にありがとうございます。

(カリタス大船渡ベース ベース長 菅原圭一)



大船渡市からの感謝状



大船渡教会周辺 震災直後



大船渡教会周辺 最近の様子



大船渡教会下の道路 震災直後



大船渡教会下の道路 最近の様子



祭壇横には城星学園の設立母体である「扶助者聖母会(サレジオン・シスターズ)」の共創業者で初代総長の聖マリア・ドメニカ・マザレロの額と学園の保護聖人である扶助者聖母子像が置かれた。

「学園の創立70周年を祝うミサ。学園に関わる多くの方々に参加していただくことができ、大変すばらしい時間となりました。皆で心を合わせ、この70年間、城星学園を見守り、いつも私たちが導いてくださった神様、マリア様に感謝の祈りをささげることができました。この70周年を新たな発展に向けての第一歩とし、学園一丸となって進んでいけるよう、祈り続けます。」

(文 城星学園広報担当)

主催者の感想

以下、前田大司教のミサ説教より抜粋。「城星学園創立70周年、おめでとうございませぬ。城星学園は、カトリックの精神に基づいて『良心的な人間、よき社会人』の育成を使命としています。また、創立者・ドン・ボスコの『教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りませぬ。青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる必要がある』という言葉は、城星教育の金言です。子どもたちにとって、自分が大切にされていると感じることこそが仕合わせです。そのために、『ともに生きる、ともに歩む教育』が必要なのです。玉造教会は、城星学園発祥の地であり、『ともに歩む共同体』です。これまでの70年を神様に感謝して、マリア様のように神様を信じて希望のうちに共に歩みましよう。その『共に歩む姿勢(シノダリティ)』こそ、学園の発展につながり、神様、マリア様の栄光にもつながるのです。」

城星学園創立70周年記念ミサ 「自分は大切にされている」と分かるように

2022年11月25日(金)10時から大阪カテドラル聖マリア大聖堂で、城星学園創立70周年記念のミサが前田万葉大司教の司式により行われた。

共同司式には聖ザベリオ宣教会副管区長(当時)のジョヴァンニ・デリア神父、サレジオ会(大阪星光学院中学校・高等学校)の吉田利満神父が駆け付けた。全体で600人ほど参加し、大きなお祝いとなった。この日は幼稚園児、小学生、中学生、高校生、保護者の皆様、そして教職員全員で、心を合わせて祈る時間を過ごした。また、70周年を記念して、小学生から高校生の聖歌隊約40人の美しい歌声、そしてパイプオルガンの荘厳な演奏を奉納した。ミサに与った子どもたちは、特別な空間にいられる喜びを感じている様子だった。

「学園の創立70周年を祝うミサ。学園に関わる多くの方々に参加していただくことができ、大変すばらしい時間となりました。皆で心を合わせ、この70年間、城星学園を見守り、いつも私たちが導いてくださった神様、マリア様に感謝の祈りをささげることができました。この70周年を新たな発展に向けての第一歩とし、学園一丸となって進んでいけるよう、祈り続けます。」



第20回 教区宣教司牧評議会 同じ主を信じて共に歩む

新年を迎えての1月15日、コロナ感染の第8波で懸念が広がる中ではあったが、お互いの配慮によって対面での「教区宣教司牧評議会」が実現した。

新年に当たって、前田万葉大司教を中心に大阪教区の方針を見出すべく、時報1月号掲載の大司教の「新年メッセージ」および共に歩む教会を目指す「シノドス(世界代表司教会議)」の文書を確認しながら、祈りのうちに意見交換を行った。

中でも注目されたのは、新年メッセージの末尾に記載されていた機構改革についての内容で、前田大司教は教皇庁における具体例を示しながら、司牧者と信徒が教会について同等に意見を分かち合うことができ、特に若者たちが自由に、そして自主的に活動を推進していくための環境づくりが重要であると述べた。

シノドスに関しては、すでに、世界中からの意見をまとめた「大陸ステージへの作業文書」が発表されていて、共に歩む教会の姿が全世界を巻き込むものであるとの認識を今後ますます深めさせる流れを感じられた。

これらの発表などを受けてグループ別の分かち合いが行われ、教会の中での司牧者と信徒の関係をより深めるための方法や、地域の中での教会の姿勢、オンライン会議など現代の技術の活用の仕方、分かち合われたものをより多く共同体として共有することの必要性といった意見が活発に交わされていた。

教会は多様性を受け入れながらも、同じ主を信じて共に歩む一つの集まりとして認識される必要性を強く示されているが、それをより象徴的に示す大阪教区となっていくよう、祈りを欠かさず邁進していきたい。(文 宣教司牧評議会 担当司祭 大久保武)

大阪教区修道女連盟研修会 修道女としての「高齢化」 — 現実と希望 —

1月7日、8時半からサクラファミリアにおいて、修道女連盟研修会が行われた。12の修道会、23の修道院から40人の参加があった。研修会のテーマは「修道女としての『高齢化』現実と希望」。講師は、カトリック仁豊野ヴィラ(介護老人保健施設)施設長とドムスガラシア(サービスピッキ高齢者向け住宅)施設長を務める濱口一則氏。

濱口氏は、現在多数の修道会を抱える高齢化と介護に関する資料を多く準備していただき、グラフを見せながら現状を具体的に説明された。そして、超高齢化にある女子修道会の現実をしっかりと受け止め、「自分たちだけで」考えるのを避け、専門家を交えた体制作りを急ぎ、修道院にこもらず、外へ出て、他の修道会

と連携しながら、たくさん人の声を聴くことを勧められた。また、教皇フランシスコが提唱されているように、社会の人びと、特に子どもたちや周縁にいる人びとの声を聴き、福音の精神に立ち戻り、共同で新しい奉仕職を霊的識別する大切さについて語った。濱口氏からは、最後に「大阪修道女連盟で新しく大胆な

ことを始めませんか?」との問いかけがあった。講話の後は、酒井俊弘補佐司教司式によるミサ。酒井司教はミサ説教で「教会が一つとなるために自分たちのカリスマを使う」という意味について語った。修道女一人ひとりが、最後まで召命を生き生きと生きることのほうが、修道院を

残すことより大事ではないか。それぞれが置かれている場所、今の状況に合わせて自分の召し出しへの忠実を守っていくことができるように共に祈りましよう」と結んだ。(文 大阪教区修道女連盟)



自分より困っている人の話を聞き、分かち合い、大胆な決断を受けいれようと呼びかける濱口氏

★大東教会★

12月18日(日)14時から「第5回 飯盛山麓クリスマスフェスタ」を開催。第1部は三好長慶研究で第一人者の天野忠幸氏(天理大学准教授)による講演「飯盛城下のおもてなし」。第2部は下村修氏(関西フィルハーモニー管弦楽団コントラバス担当)と由美子氏(ピアノ担当)夫妻による演奏。

講演は、飯盛城主三好長慶の重臣でキリシタン大名の深野池領主三箇城主・三箇頼照(サンチョ)と息子頼連(マンショ)について。本願寺の証如や宣教師を舟遊びで歓待したことをお話しされた。演奏会では、コントラバスの低く響きのある重厚な音が聖堂に良く調和して感動。参加者は50数人で、そのうちの3分の1は教会以外の地域一般の方々。成功裏に終わり感謝しています。



コントラバスとピアノの音色が心を打つ

★玉造教会★

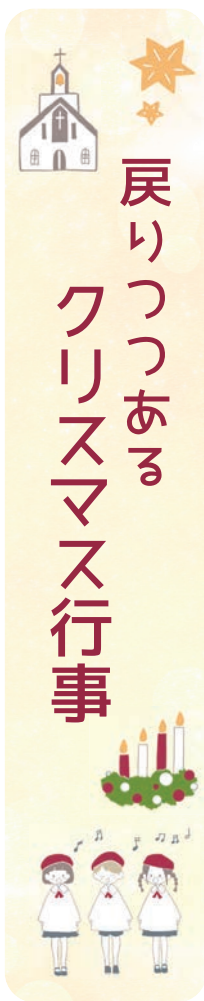
12月24日(土)17時から1時間、「カテドラル聖夜の祈り」を開催。玉造教会近隣のミッションスクール4校(城星学園小学校、ヴェリタス城星学園中学校・高等学校、明星学園中学校・高等学校、大阪星光学院中学校・高等学校)の児童・生徒によるさまざまな歌で紡ぐクリスマスの夜。

神聖な雰囲気と清らかな歌声に包まれて特別な夜となった。この機会に、信者以外の方にも教会に足を運んでいただいた。酒井俊弘補佐司教のお話をとおして、クリスマスをより深く味わっていただけたと思う。イエス・キリストがもたらす平和がこのように広がっていくことを願う。



ミッションスクールの生徒たちによる合唱

昨年(2022年)のコロナ禍が始まってから3度目のクリスマスを迎えた。主の降誕の喜びを信者と分かち合い、近所の人びとにもその喜びを届けるための行事が少しずつ再開したようだ。各地から、それぞれの取り組みの報告を紹介したい。今年こそは、より多くの場で福音の光を届けることができよう。



★芦屋教会★

12月4日(日)17時から芦屋キリスト教協議会(CCA)の恒例行事「クリスマスキャロル」が、JR芦屋駅北側のペデストリアンデッキを舞台に賑やかに開かれた。CCAはエキュメニカルな団体。各教会の有志による合唱と演奏、および祝福のメッセージで盛り上がった。



毎年恒例のCCAによるクリスマスキャロル



★北須磨教会★

12月24日(土)16時から一時間、神戸市営地下鉄「名谷駅」駅前広場でクリスマスキャロル演奏を行った。コロナ禍で演奏を中断して3年、規模を縮小しての再開トライアル。練習も呼びかけも控えて臨んだが、歌を愛する信徒が集まり、思いのほかの出来。道行く人も立ち止まって聞いてくださり「来年はもっと」と希望が膨らんだ。



3年ぶりの歌声。歌を愛する信徒たちで

★六甲教会★

12月18日(日)14時半から教会主聖堂で2年ぶりの「クリスマス音楽の集い」を開催。この集いは教会にゆかりのある演奏家に来演していただくこともあるが、今回は教会の典礼部音楽チームを中心としたメンバーで、演奏会を開いた。オルガン、声楽、バイオリンなど。

毎年来られるお客様が待ちかねたよう到来られ、万全の感染対策をしながら満席の状況。前面の大きなモニターには次々と美しい映像と解説が繰り広げられ、久しぶりのクリスマス音楽に浸っていただくことができた。



演奏者の皆さん(教会の典礼部音楽チーム)

★洲本教会★

12月24日(土)19時からの主の降誕ミサ前は、聖堂で信者の岡本みどりさんによる琴「六段」の演奏。悠久を誘う美しい音色が聖堂に響き渡り、ミサ前に厳かな雰囲気に包まれた。ミサ中には「光の式」を行い、信者がキャンドルを持って行列し、祭壇前にささげた。

25日(日)のミサ後11時半より簡単な茶話会を企画。コロナ禍の影響で今年はあいにく少人数の参加となった。主の降誕のミサの中では4人の幼児洗礼があった。子どもたちは教会の宝。幼児洗礼が多いと希望が見える。



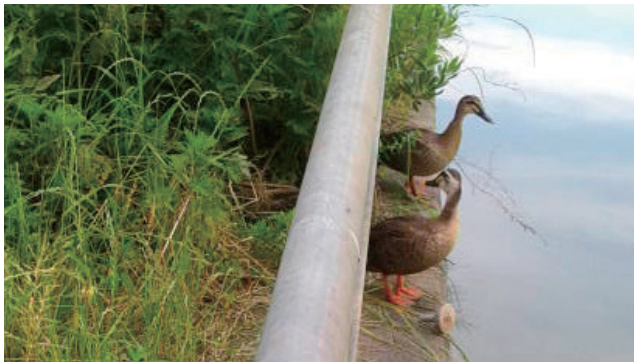
幼児洗礼記念写真

★和歌山紀北教会★

12月18日(日)のミサ後11時半から、子どものクリスマス会とクリスマスキャロルを行った。最初に、和歌山信愛の中高生によるハンドベルと合唱。次に、子ひつじ会による小さなハンドベル。その後、大人の有志による得意の楽器をもつての演奏で「ようこそイエスさま」を歌った。一人ひとりが奏でる音色と歌声は新しい聖堂に美しく響いた。



合唱と演奏を行う子ども・中高生たち



互いを思いやりながら進む2羽のカモに魅せられて

時に大学生がサークル活動で、競技用の細長いボートを1〜10人ほどで漕いでいる。先輩の後輩への指導ぶりが温かい雰囲気、私の心も温かい。花愛好家のグループが育てた花を見ても癒された。コロナ禍で出会う人は少ないが、癒しを求めてそれぞれが来て、とても安らぎの場所の良い所。高い土手の石段に座り、前方を眺めれば、大空が180度以上に開け、山並みが遠くに見える、地球が丸い！と分かる。水鳥のヒナが泳いでいて微笑ましい。

体調を崩し、数か月の静養を自宅で過ごした頃、徐々に体力強化を思い立ち、自宅から五分程の神崎川で散歩を始めることにした。遊歩道や自転車専用道が有り、幼児や老若男女が安心して散歩ができる。

読者投稿でつむぐコラム

ちよっとイイ話

第1回 大阪梅田教会 安本^{みね}峯子

教会や家など身近にあった心温まるエピソードを読者投稿より紹介！



近所に住んでいた留学生ビニー・シャーマさん(左)と筆者(右)。日本で良い思い出ができるようにとの思いで声をかけ、交流するようになった。教会でも、新しく来られた人にはすすんで話しかけている。写真左後方にはボートが写る。

ある日、一人で歩いている私の後方から、2メートル近く前に舞い降りた水鳥のカモに驚いた。私に背中を向けてコンクリートの歩道に。じっと動かないので私もじっとして見ている。やがて、カモがゆつくり移動。それに合わせて私もそっと移動。カモは攻撃してきたり、逃げたりはしない。すると、動き出した先の草むらにもう一羽のカモがこちらを見ていた。感動の一瞬。こんな瞬間を体験できるとは。体の大きさが同じだったのでたぶんカッ

プルのでは。さらにこちら側のカモが草むらに入り、それを待っていた相手と、目標の場所に揃って移動し始めたが、私の視線を感じ、目的変更とばかり、向きを変え、川沿いのコンクリートの壁に並び、飛び込むかのように、またまた、向きを変え、一直線上前方に進み姿を消した。見事な判断。

互いへの思いやり、知恵と判断する行動に尊敬の念すら覚えた。短時間であったが、感動の余韻が長く残った。その場面をデジタルカメラで撮影できたのもラッキーだった。体調が戻るまで、季節が何度か巡り、やっと取り戻していたのだと今を、誰かのために役立つように心がけています。

ご投稿ありがとうございました！

私は1986年にイタリヤから来日しましたが、来日してまもなくアシジで世界平和の祈りの集いがあり、私の所属する聖ザベリイ才宣教会でも、京都のリン・ベリー二神父が日本の諸宗教代表者団に引率しました。のちに霊性センター「真命山」を始めるフランコ・ソットコロノ神父も諸宗教対話の活動を模索していたところでした。そんな中、日本語を勉強中だった私も、門脇佳吉神父様のことを知りました。神父様はイ

「試みに現代の日本で道と呼ばれるものを列挙して見るとよい。茶道しかり、華道しかり剣道しかり、柔道しかり、歌道しかり、俳句の道しかりである。ある人は野球道を唱え、ある人は商業道を説きさへする。……ほとんどの人がこれらの芸能を通じて何らかの意味で身心を鍛錬し、精神を修養したいと、心のどこかで願っていることは疑いないことだと思ふ」。

この本によると、日本では古くから「道」の思想があり、その伝統は今も日本人の心の中に生き続けているという事です。

次回、パウロ・セコ神父様(和歌山紀北教会)です。

① 年齢は35歳まで。カトリック信者、もしくはカトリック教会と何らかの関係がある方(カトリック校や諸施設の在籍者又は卒業生、保護者、関係者など)。
② 感想は400字程度。氏名、所属、顔写真(自由)を添えてメール(jiho@osaka.catholic.jp)か郵便にて送付(掲載にあたり編集する場合あり)。
③ 感想を送ってください。皆様全員に教区オリジナルしおり(4枚組)を進呈。たくさんのご投稿をお待ちしています。

エズス会の司祭ですが、禪の修行もなさって、仏教とカトリックの接点を研究され、その結果をいくつの本に書きのこしてくださいます。神父様の本を読むと、日本の文化に対して大きな関心が起り、宗教心のおもしろさも伝わってききました。神父様は特に『道の形而上学』という本でご自分の研究のまとめをなさいました。諸宗教の比較によって神父様が発見されたのは、仏教でもキリスト教でも、「道」という概念はとも豊かな意味をもった言葉であり、かつ互いの大きな共通性を示す言葉ということでした。そればかりか、神父様は「道」という概念を日本の宗教と文化の基礎として明らかにされました。

司牧者がリレー形式で若者たちにぜひ読んでもらいたい書籍を紹介し、青年たちの読書感想文を掲載する連載。今回は、最頼^{もよりかんりやう}巖流^{いんりゅう}神父様、聖ザベリイ才宣教会が担当。



ひとりで悩まないで～私たちに聴かせてください～
カトリック大阪大司教区
ハラスメント相談窓口
※委員会はハラスメント全般を視野に入れることになりました。そのため、名称変更します。
電話番号:06-6941-9718
相談窓口受付時間
月・火・金曜日(祝日を除く)
午前10時～午後4時
あなたの悩みを親身になって受け止めます。秘密は必ず守られます。

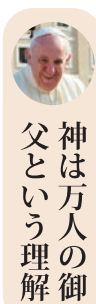
大阪教区のカトリック病院
ガラシア病院
特徴的な医療
ホスピス(緩和ケア)
リハビリ・神経内科
肝臓内科・循環器内科
医療法人ガラシア会
理事長 前田万葉 大司教
チャプレン 松本信愛 神父
〒562-8567
箕面市粟生間谷西 6-14-1
☎ 072-729-2345
医療法人ガラシア会

株式会社 ガラシア WINGS
サービス付き高齢者住宅
ドムス ガラシア
「ドムス ガラシア」の看護師、介護職資格のある信徒の職員、また併設する「ガラシア園田クリニック」の医師、看護師を募集しております。ご協力をお願い申し上げます。
☎ 06-4960-8020
✉ info@gratia-wings.jp
担当 濱口、Sr川水

新コラム投稿募集
(800字程度+写真1枚)
①か②のお題を1つ選び、『大阪カトリック時報』宛にお名前、所属教会、連絡先記載の上、メール・郵送・FAXのいずれかでご応募ください。
①「わたしの教会のいいところ」所属教会のお宝・自慢できるところを紹介
②「ちよっとイイ話」教会や家など身近にあった心温まるエピソード紹介

キーワードで読み解く
回勅 兄弟の皆さん
 連載第7回(全7回)
 酒井俊弘補佐司教

第8章「世界の兄弟愛のために働く宗教」の教皇フランシスコならではのキーワードをご紹介します。



神は万人の御父という理解

272 わたしたち信者は、神は万人の御父という理解がなければ、兄弟愛の呼びかけに盤石な根拠はないと考えます。「孤児ではない」という子としての意識があつてこそ、わたしたちは互いに平和に暮らすことができます」と確信しています。

271 父である神は、信者だけの父ではなくすべての人の父です。わたしたちは皆言わば血のつながった兄弟。その自意識が互いの理解と平和の基礎となります。

270 わたしたちは、仕える教会、家から出て行く、聖堂から出て行く、香部屋から出て行く教会になりたいのです。いのちに寄り添い、希望を支え、一致のしるしとなるために、……橋を架け、壁を壊し、和解の種を蒔くためにです。

はどこに出かけて和解の種を蒔けるだろうか」と。

福音の調べが流れなくなつてしまえばメロディがやんでしま

277 もし福音の調べが、家庭で、町中で、職場で、政治や経済の場で流れなくなつてしまえば、あらゆる人の尊厳のために闘うようわたしたちに迫るメロディがやんでしまうでしょう。

278 私たちこそが憎しみの連鎖を断ち切るべき者です。

一人を殺した者は人類を殺したと同じ

285 神が、一人を殺した者は全人類を殺したと同じであり、一人のいのちを救う者は全人類のいのちを救つたと同じであると定めることとで、そのいのちを奪うことを禁じた、人間の無垢の魂の名によって……歩む道としての対話の文化を、行動としては協働を、方法・基準としては相互認識を採

扱することを宣言します。

287 聖霊、来てください。地上のすべての人に映し出される、あなたの美しさを示してください。どの人も大切であり、どの人も欠けてはならないことに気づき、異なる顔をもつ一人ひとりが神に愛された同じ人間であることをわたしたちが悟ることができま

287 聖霊、来てください。地上のすべての人に映し出される、あなたの美しさを示してください。どの人も大切であり、どの人も欠けてはならないことに気づき、異なる顔をもつ一人ひとりが神に愛された同じ人間であることをわたしたちが悟ることができま

この祈りをもって『兄弟の皆さん』は終わります。わたしたちの日々の祈りとしていきま

バチカンのサイトから『兄弟の皆さん』の日本語PDF版を閲覧・ダウンロードすることができ



ラジオ
信仰の時間

河内キリシタン
 〈1月29日放送分〉



酒井 淳神父
 (大阪田辺・平野教会)

きょうは、一度は訪れてほしい、大阪のキリシタンの聖地をご紹介しますと思います。皆さんは「河内キリシタン」のことをご存じでしょうか。今から約460年前の戦国時代、畿内を支配し、天下人と呼ばれた三好長慶の居城が、河内平野の北東部、生駒山系の飯盛山・山頂にありました。標高314メートルの山上からは、今でも、北は京都、西は大阪平野を抜けて六甲山地や淡路島、南は和泉山脈までを見渡すことができます。

室町幕府の実権を握っていた三好長慶は、キリスト教の布教を許可し、キリシタンの保護を命じていました。そして、フランシスコ・ザビエルが来日して15年目となる1564年に、この飯盛城内において、長慶配下の家臣73名が、修道士ロレンソ了齋の話を聞き、宣教師ガスパル・ヴィレラから洗礼を受けてキリスト者となりました。

この出来事が発端となり、豊臣秀吉が伴天連追放令を出す1587年までの20数年間、河内一帯は畿内キリシタンの聖地として、急速に発展していくこととなります。飯盛城下の三箇を始めとして、主な町には教会が建てられ、宣教師ガスパル・コエリヨは、砂、岡山、八尾に6千人近くの信徒がいると1581年の年度報告に記しています。

現在の飯盛城跡地は、国の史跡に認定され、調査や整備も進み、身近なハイキングコース

として親しまれています。JR野崎駅や四條畷駅から登山ルートが複数ありますし、野崎観音の境内北側にも登り口があります。私は昨年2度、飯盛城跡に行きました。1度目は阪奈道から大東市立野外活動センター前の駐車場に車を停めて、尾根伝いに15分ほど歩くらくらくコースを。2度目は野崎観音から登り、城跡の南に出て、頂上、展望台を経て北條神社へと下る往復2時間のコースです。山城ですので、登り・下りは楽ではありませんが、かつて宣教師やキリシタンたちが辿ったであろう道を自分も歩き、見たであろう城跡からの眺望を自分もまた目にしているという感慨を味わうことができました。

今日のミサの福音は、イエスが山の上で人びとに語られた、八つの幸いのお話が読まれます。イエスが弟子たちと登られた山を飯盛山と重ね、そこに集まって主の言葉を聞いた人びとの思いを、河内に栄えたキリシタンの人びとの信仰に重ねながら、今日の福音(マタイによる福音5章1~11節)に耳を傾けようと思います。

ネットを検索すれば「河内キリシタン」について、多くの情報に触れることができます。身近なところでは、飯盛山の麓に建つカトリック大東教会が属している「しろきたブロック」のウェブサイト、地元出身の竹延真治神父

による、面白くて分かりやすい「河内キリシタン」の記事が載せられています。

書籍では、昨年の『大阪カトリック時報』1月号の「司牧者から若者たちにこの一冊」のコーナーで、竹延神父が紹介文を寄せていた『野崎観音の謎(2008年)』という本があります。著者は河内キリシタンの研究で知られる野崎キリスト教会の神田宏大牧師。野崎観音は落語や歌で知られる「野崎まいり」の舞台となった禅宗のお寺ですが、迫害後の河内キリシタンとこのお寺の深いつながりを扱った興味深い内容で、河内キリシタンの入門書としてもお勧めです。現在、入手が難しくなっているようですが、カトリック大東教会にはまだストックがあるようです。

さて、カトリック大東教会では「河内キリシタン」の関連イベントが行われています。春には「三好長慶公・武者行列 in 大東」、秋は「河内キリシタン記念祭・野外ミサ」、12月は「飯盛山麓クリスマスフェスタ」が毎年行われます。興味のある方は、問い合わせしてみてくださいね。

毎週日曜日 5:50~6:00AM 放送
 3月担当: 松永 敦神父
 ABCラジオ(朝日放送) AM1008/FM93.3
 スマホアプリのradikoでも聴けます。

性虐待被害者のための祈りとつぐないの日

子どもと女性をとりまくさまざまな問題を通して「神からいただいたいのち」をもう一度深く味わうために。人を傷つけ、いのちの輝きを奪うことのないように——謙虚な気持ちで学び、傷つき苦しむ人のいのちが再び輝きを放つよう祈る時間を持ちたいと思います。どなたさまも自由にご参加ください。

主催 ハラスメント対応委員会(※名称変更)
 問合せ 教区本部事務局 ☎06-6941-9700

3/11 土・サクラファミリア 14時 テゼによる祈りの集い



私たちカトリック大阪大司教区の司祭団は、人間の尊厳を踏みにじる性虐待、性暴力、あらゆるハラスメントを許さず、教会でこのようなことを二度とおこさないように決意し、防止に取り組むことを表明します。

(2020年3月「カトリック大阪大司教区 性虐待、性暴力、ハラスメント防止決意表明」)

イエスにならう生き方を求めて

悩みを持つ人々の痛みに寄り添い、その悩みを少しでも分かち合うことのできる教会共同体をめざして

日本カトリック司教団著「いのちへのまなざし」増補新版より

「性虐待被害者のための祈りと償いの日」に

2023年3月10日四旬節第二金曜日



2022年11月30日(水)、大阪教区司祭月修においてNPO法人レジリエンスの中島幸子さんを講師に招き、「性暴力、性虐待について考える」司牧者に知ってもらいたいこと」と題して研修会を行った。性暴力、性虐待に遭わないために子どもと関わる大人に何ができるのか、注意しておく必要があるのか、そのポイントを紹介する。

加害者の特徴

世界的カトリック教会においての性虐待は長年の課題であり、特に、児童に対する虐待の報道は後を絶ちません。教会として、その防止と啓発活動に力を入れ、虐待、暴力、パワーハラスメントなどについての学びを深めることが求められています。

子どものリスク

虐待されている、すでに性虐待に遭っている、ネグレクトを受けている、人との間の「境界線」が乱れている、「解離」している、家が貧しい、こういった環境に置かれている子どもは虐待を受けるリスクが高い。

子どもの様子を注視

子どもの様子が急に変わった、子どもがびくびくしていたり、おびえていたり、教会にいくことを嫌がり、教会にいくことを嫌がりはじめ。子どもが訴えかけようとするが何を言おうとしているのかよくわからない。自傷行為、摂食障害が始まった。成績が急に下がる、引きこもるようになった。

日本のカトリック信者の皆様へ

2023年

「性虐待被害者のための祈りと償いの日」にあたって

いのちに対する暴力が荒れ狂う世界にあって、神がいのちを、わたしたちに賜物として与えてくださったと信じるキリスト者には、いのちを守り、人間の尊厳を守る務めがあります。教会にとって「イエスをのべ伝えるとは、いのちをのべ伝えることにほか」ならないからです(ヨハネ・パウロ2世「いのちの福音」80)。

その教会にあって、率先していのちを守り、人間の尊厳を守るはずの聖職者や霊的な指導者が、いのちに対する暴力を働き、人間の尊厳をないがしろにする行為を働いた事例が、近年相次いで報告されています。性虐待という人間の尊厳を辱め蹂躞する聖職者や霊的指導者の行為によって深く傷つけられた方々が、長い時間の苦しみと葛藤を経て、ようやくその心の思いを吐露された結果であると思えます。そのように長期にわたる深い苦しみを生み出した聖職者や霊的指導者の行為を、心から謝罪いたします。

なかでも保護を必要とする未成年者に対する性虐待という、きわめて卑劣な行為を行った聖職者の存在や、司教をはじめとした教会の責任者が、聖職者の加害行為を隠蔽した事例が、過去にさかのぼって世界各地で報告されています。

教皇フランシスコは、この問題に教会全体が真摯に取り組み、その罪を認め、ゆるしを請い、また被害にあった方々の尊厳の回復のために尽くすよう求め、「性虐待被害者のための祈りと償いの日」を設けるようにと指示されました。日本の教会では、四旬節・第二金曜日を、この祈りと償いの日と定めました。2023年においては、来る3月10日(金)がこの日にあたります。

日本の司教団は、2002年以来、ガイドラインの制定や、「子どもと女性の権利擁護のためのデスク」の設置など、対応にあたってきました。2021年2月の司教総会で、「未成年者と弱い立場におかれている成人の保護のためのガイドライン」を決議し、教会に求められているいのちを守るための行動に積極的に取り組む体制を整えてきました。昨年には、「子どもと女性の権利擁護のためのデスク」が啓発活動にさらに取り組むよう、司教協議会会長直属の部門としてガイドライン運用促進部門を別途設置し、責任をもって対応する態勢を整えつつあります。もちろんいのちを守り、人間の尊厳を守るための務めに終わりはありません。聖職者をはじめ教会全体の意識改革などすべきことは多々あり、教会の取り組みもまだ十分ではありません。ふさわしい制度とするため、見直しと整備の努力を続けてまいります。

あらためて、無関心や隠蔽も含め、教会の罪を心から謝罪いたします。神のいつくしみの手による癒やしによって被害を受けた方々が包まれますように、心から祈ります。同時に、わたしたち聖職者がふさわしく務めを果たすことができるように、お祈りくださいますようお願いいたします。

どうぞ、四旬節第二金曜日に、またはその近くの主日に、教皇様の意向に合わせ、司教団とともに、祈りをささげてくださいますようお願いいたします。

2023年2月17日
日本カトリック司教協議会 会長
菊地 功

※2019年5月7日教皇フランシスコは自発教令形式による使徒的書簡を發布した。虐待の報告義務を聖職者と修道者に課す規定を新たに定めた文書で、書簡にはその総則も付随している。 閲覧はこちらから▶▶▶



な情報を子どもと話している。子どもにとって指導者となるのではなく、友だちになろうとしている。子どもと過ごす時間が異常に長い。子どもの発達にとても関心がある。といった行動が見受けられる。

教会としての心得

- 寄り添うということは「聴く」ということ。
- 被害者の話を疑ったり、否定したり責めたりしない。
- 加害者を弁護しない。
- おなじ話を被害者に何度か聞かせない。
- 守れない約束を安易にしない。
- 通報せず、教会内だけで対応しようとすることは隠いとなる。
- 子どもと二人きりになることを禁止する。
- 子どもに近づきたがる人たちの中には加害者が含まれている可能性があるという認識を常に持つておく。
- 性虐待の可能性が出てきたら、直ちに通報する。※
- 少しでも加害行為が疑われるような行動が見受けられたら、直ちに子どもに関わることを禁じる。
- 驚いたり、動揺したりと大きな反応をせずに相談者の話をきちんと受け止める。
- これらのことを踏まえ、子どもたちが被害に遭わないため、未然に防ぐために周りにいる大人が、子どもの尊厳を守るように努めなければなりません。

性虐待についての書籍・エッセイ情報

- ◆ 『なぜ私は凍りついたのか：ポリヴェーガル理論で読み解く性暴力と癒し』 中島幸子著
- ◆ 『マイ・レジリエンス』 / 『性暴力その後を生きる』 中島幸子著
- ◆ 『傷ついたあなたへ』 / 『傷ついたあなたへ2』 レジリエンス 著
- ◆ 『つながる 話すとともに歩む 性暴力をなくすために一人一人ができること 講演録』 レジリエンス著



平和旬間テーマ決定

「希望をもってともに歩む Let's hope and walk together
～あきらめずに目を覚まして Stay awake, never give up～」

INTERNATIONAL DAY スローガン

「外国人が暮らしやすい社会は日本人にも暮らしやすい」

* 2023年1月28日(土) 全地区宣教評議会 信徒代表者会議を開催。
平和旬間の教区共通テーマとINTERNATIONAL DAYの取り組みについて話し合った。

正義と平和協議会全国集会大阪大会 録画動画限定公開追加のご案内
▶ 26分科会「"拉致"を知り、共に祈る」 <大阪教区ホームページより検索>

「生きる」— 難民移住者

いいじゃないか、お年寄りが憩う教会

「歳を取るのはいいことですよ。いろんなことが分かってくるから」。

歳なんて取りたくないと思いた私の友に、カルメル修道会の中川博道神父が仰った言葉です。私も今になって「あの時のあれはそういうことだったのか」と分かる瞬間が増えたように思います。図太くなるというか、少しのことには動じない鈍感力がつくのも歳を重ねる者の強みです。

各地区の社会活動委員会に参加すると、「年寄りばかりで教会の担い手がいない」との声が必ず聞かれます。確かに青少年の姿が見

えないのは寂しいですが、人生を長く歩んできた人たち集まりには、静かな豊

の面会ボランティアに行ったり、80代のシスターが通訳に東奔西走したり、70代のシスターは「若手」でペーパーの現役扱いの修道会も多くあり。先日は、シナピスに入りする社会人から英会話習いたいの要望があったので、英語教師を探しました。講師はこれまた90代のシスター。エク



かさど人を受容する優しさがあります。「私は体が動きませんがあなたの身の安全を祈っていますよ」と声

セレント。ただ、良いことばかりではありません。私は時々学習会などに呼ばれて壇上で

話す機会があるのですが、質疑の時間になると決まって手を挙げ、私への質問ではなく、自分の知識を語る人がいるのです。何分でも途切れずに話すので司会者が制するのにも苦労します。ある団体に呼ばれた時もそうでした。後から主催者が「どこにでもいますでしょ、ああいう方。私たちは、教えたおじさん」って呼んでますの」と笑っていました。

鼻息の荒い若者だった頃は、私によく父に口ごたえをしたものでしたが、ある時、そんな私に父が言いました。「老人の照らす光は冷たい、でも道を照らすよ」。歳を取るというんなことが分かってくる。私も今、父のこの言葉が分かるようになりました。(文 シナピス事務局 ビスカルド篤子)

「カテキズムの学び」 第39回 第2編 「キリストの神秘を祝う」開始

2019年6月に始まったカテキズムを学ぶ信仰養成講座は、第2編の典礼、中でも七つの秘跡という信者にとって身近なテーマに入りました。1月26日に行われた第1回目の様子は上のQRコードから視聴できます。

そもそも典礼とは何かという点について、カテキズムはこう説明しています。

教会が典礼において告知らせ祝うのは、キリストの過越の神秘です。……典礼祭儀はすべて、祭司キリストとそのからだである教会のわざなものですから、他に卓越した聖なる行為であって、その効果に対して、教会の他のいかなる活動にも、同等の理由や程度でこれに匹敵するものはありません(1068、1070番)

過越しの神秘とは、キリストによる救いのわざのことです。私たちは典礼祭儀を通してその救いに与ることができます。「典礼は教会の活動が目指す頂点であり、同時に教会のあらゆる力が流れ出る源泉」(1074番)なのです。なぜなら、「キリストは、つねにご自分の教会とともにおられ、とくに典礼行為に現存しておられ」(1088番)るからです。

典礼におけるキリストの現存は、各秘跡における現存ですが、会衆の中にもキリストは現存しています。その根拠は「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる」(マタイ18・20)」というイエス様自身の約束です。

質疑応答で、「では一人でいる場合はキリストは現存しないのですか」という質問がありました。聖書のこの場面は「あなたがたのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる」(同19)とされている箇所が続きますから、複数で集まって祈ることの大切さを強調されているのでしょう。とはいえ、一人でいるときにはイエス様がいてくださらないというわけではありません。コリントで宣教中のパウロに向かってイエス様は「恐れるな。……わたしがあなたと共にいる」(使徒言行録18・9-10)と励ましておられます。

(文 酒井俊弘補佐司教)

訃報

Sr エレナ工藤道子(援助修道会)は、2022年12月19日、心不全のため神戸労災病院にて帰天。92歳。東京都出身。奉獻生活63年。



神戸六甲教会にて受洗。1959年初誓願後、修道会運営の児童館(神戸)、女子寮寮長(東京)、老人ホーム施設長(北九州)などで使徒職に従事し、修道院内では管区会計はじめ地区共同体の会計係の派遣を受け、奉獻生活のどの時代でも会計とのかかわりの中で献身した。誠実で慎ましかな人柄で、教会へ友達を呼び集め、みことばを宣教した。

ペルセンターで祈りの生活を送っていた。

Sr マリア佐藤壽子(聖母被昇天修道会 R.A.)は2023年1月2日、介護老人保健施設ニューライフガラシアにて帰天。93歳。東京都出身。奉獻生活63年。



1946年小林聖心女子学院にて受洗、57年に入会。フランスで修練を受け、59年に初誓願を宣立。帰国後、箕面の学院に勤務、64年に終生誓願宣立以降も会の教育施設で宗教教育を担当し、園長も務めた。94年から9年間は管区会計も担った。

明るく笑顔で子どもたちや周りの人びとに接し、すべてをキリストにささげ、愛と喜びに生きた生涯であった。

Sr 幼きイエスのテレジア原良子(シヨファイユの幼きイエス修道会)は、2023年1月5日、肺がんのため西宮市・上ヶ原病院にて帰天。91歳。島根県出雲市出身。奉獻生活61年。



加古川教会にて受洗。1961年の初誓願宣立後、本会各地の児童養護、乳児院、病院、障害者支援施設において会計、書記を歴任。多くの人ととの関わりの中で、あらゆる「いのちへの奉仕」によって神様の愛を証した。

2005年より仁川本部修道院での生活となり、主に会計を手伝いながら、その傍ら趣味の手芸を活かし小物を作り姉妹や来訪者を喜ばせた。読書好きでその恵みを分かち合い、文通によって宣教に励んだ。



「すべてに感謝」の言葉を携えて安らかに御父の御許に旅立った。

ヨセフ阿部眞理(聖パウロ修道会)は、2023年1月16日、膵臓がんのため静養先(福島市内)の自宅にて帰天。64歳。福島市出身。

1971年、聖パウロ修道会福岡修道院に入会。79年に初誓願、85年に終生誓願を宣立。87年9月、箕面修道院が落成し、この修道院で普及の使徒職に従事した。大阪教区はもとより、京都、広島、高松教区などの教会、修道院、学校、医療施設などを回り、出版物、聖品、視聴覚製品の販売促進に務めた。2000年5月から7年間、サンパウロ東京店に勤務したが、08年1月から箕面修道院に異動し、院長やサンパウロ大阪支部の責任者を務めた。21年夏にがん治療を始めてからも、教会などへの普及活動を継続した。多くの人と接することを喜びとし、ミッションスクール

来、見なさい



ヨハネ 1・46

※詳細は各主催者へ直接お問い合わせください。

教区委員会主催

信仰養成連続講座◆カテキズムの第2編「キリスト教の神秘を祝う」

日時 3/23(木) 18:30~20:00
講師 酒井俊弘補佐司教
場所 サクラ ファミリア / YouTube配信あり
問 ☎06-6941-9700
主催 使徒職養成委員会

諸宗教対話委員会◆2022年度第4回諸宗教活動 神道との対話：神社訪問

内容 神社を訪問し神職と出会い、神道について学ぶ
日時 3/18(土) 14:30~16:00
講師 嶋津宣史禰宣
場所 廣田神社 〒662-0867 兵庫県西宮市大社町7-7
問 ☎06-6941-9700
✉ird-ecm@osaka.catholic.jp
主催 諸宗教対話委員会

サクラ ファミリア主催

聞かせてください 神さまと出会った時のこと~エマオへの道で~◆大阪教区で働く司祭・修道者ご自身の体験をさく

日時 4/25(火) 18:00~19:30 (夜の部)・4/26(水) 10:30~12:00(昼の部) ※両日とも同じ内容となります
おはなし バスコ・フラビオ神父

コレーン神父と学ぶ聖書◆マ

ルコ福音書におけるイエスと共に~十二使徒の姿と歩み~

日時 第2(月) 13:30~15:00 (1~4月開講)
参加費 ¥500

「新生の明日を求めて」読書会◆大阪教区のシノダリティ(ともに歩む)の原点を確認しよう

日時 毎週(月)(第2は休み) 14:00~15:30
担当 松浦信行神父

聖書通読会◆聖書のダイナミックな流れが感じられます

日時 毎週(木) 10:00~11:30
担当 松浦信行神父

「YOUCAT(青年向けカテキズム)」勉強会◆老いも若きも、キリスト教を理解しよう

日時 毎週(金) 19:00~20:00
担当 松浦信行神父

祈りのよる◆灯りをかこみ、ともに祈る静かな時間を

日時 毎月17日 19:00~19:30
問 サクラ ファミリア ☎06-6225-8871
✉f.sacra@osaka.catholic.jp

結婚準備講座

夙川教会

日時 3/5(日)~3/26(日) 4回 16:30~18:00
参加費 ¥5,000(2名)
問 ☎0798-22-1649

六甲教会

日時 次回6/3(土)~7/22(土) 8回 17:30~19:00
参加費 ¥10,000(2名)
問 ☎078-851-2846
※事前要問合せ(年2回)

黙想会

宝塚黙想の家

◆日帰り黙想会
日時 3/14(火)・3/23(木)・3/24(金) 10:00~15:30
指導 稲葉善章神父(3/14) 梁野治雄神父(3/23) 山内十束神父(3/24)
参加費 ¥3,500

◆一泊黙想会

日時 3/14(火)17:00~3/15(水)15:30
指導 稲葉善章神父
参加費 ¥9,000

◆聖地エルサレムを学ぶ

日時 第3(木) 10:00~12:00
指導 笹田六合豊修道士
参加費 ¥1,000

◆ギリシャ語で味わう聖書のことば

日時 第1(火) 10:00~12:00
指導 稲葉善章神父
参加費 ¥1,000

◆カトリック教会のカテキズム

日時 第2・4(水) 10:00~12:00
指導 梁野治雄神父
参加費 ¥1,000

◆祈りを深めるための聖書の基本

日時 3/1(水)・3/15(水)・3/29(水) 10:00~12:00
指導 山内十束神父
参加費 ¥1,000

問 宝塚黙想の家 ☎0797-84-3111

女子御受難修道会◆友の会

日時 3/29(水) 10:00~16:00
指導 梅崎隆一神父 (クラレチアン会)

場所 女子御受難修道会

申込 締め切り 1週間前

問 ☎0797-84-7863

☎0797-84-7864


講座・研修会

講座 本田哲郎神父◆小さくされた人々のための福音

日時 毎月第3(金) 10:00
場所 神戸学生青年センター
参加費 ¥1,000
問 岩村 ☎070-5045-7127
主催 神戸国際支縁機構

集い

シナピス主催◆オンライン祈りの集い~世界平和のために祈ろう~

日時 毎月第2木曜日 20:30から30分
テーマ 東日本大震災の被災者のために
参加方法 Zoom(100名まで参加可能) Zoomミーティング ID:761 071 2034
QRコード 
バーコード: 123456
主催 社会活動センター・シナピス
問 ☎06-6942-1784
☎06-6920-2203
✉sinapis@osaka.catholic.jp
HP <https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

大阪JOC◆働き方や生き方について現状から共に考える 15~35歳までの若者の集い

日時 第4(土) 14:00~16:00
場所 大阪YCWセンター (またはZoom)
問 レネ神父・水元 ☎072-232-8063
✉osakaycw@gmail.com
HP <http://www.ycw.jp/>

要約筆記グループ「エッフアタ！」練習会◆教区ミサに要約筆記(文字表示)をつけるボランティア

対象 要約筆記に関心のある方。フリーソフトcaptiOnlineを使いパソコンまたはス

マホで練習します。

日時 毎月第2(水) 10:00~12:00

場所 教区本部事務局1階会議室

問 障がい者委員会

✉dis@osaka.catholic.jp

主催 要約筆記グループ “エッフアタ!”

精神・発達症(障害)者自励グループ◆オリーブの集い

守秘義務と分かち合い いつ来てもウエルカム 当日キャンセルOK
日時 毎月第3(日) 14:00~16:00
場所 姫里集会所
参加費 無料 (12月のクリスマス会だけ実費)
申込 吉川まで
問 ☎078-583-2525
✉yassan.yoshikawa@nifty.com

カ障連大阪フレンドリー

◆点字部の勉強会

対象 パソコン点字に関心のある方、視覚障がい者の情報共有に関心のある方
日時 奇数月・第2(火) 13:30~15:00
場所 姫里集会所
申込 笠松まで
問 ☎090-5661-4324
☎072-722-0271
✉kasamatsu-yukisan@iris.eonet.ne.jp

マザー・テレサ共労者の集い

日時 第1(土) 14:00
場所 大阪梅田教会
問 高塚 ☎06-6921-0693
姫路・加古川・六甲教会はコロナ禍が収まり次第再開

難民支援チャリティ・コンサートいのりの花束2023

~武器を置いて 歌をうたおう~
日時 3/18日(土) 14時開演
場所 六甲教会主聖堂
出演 こいずみゆり・山下憲治
参加費 無料・自由献金あり
主催 いのりの花束 実行委員会
問 ☎090-9995-3269 角田

行事等日程		
3月		
1	水	10時 顧問会
9	木	[常任司教委員会]
10	金	性虐待被害者のための祈りと償いの日
17	金	日本の信徒発見の聖母
20	月	聖ヨゼフ
21	火	大阪教区司教座聖堂献堂記念日 教区召命の日 教区司教座聖堂再献堂60周年
25	土	神のお告げ
29	水	10時半 教区月修 13時 顧問会(4月分繰上)
31	金	教区会計年度末
4月		
2	日	受難の主日(枝の主日)
5	水	11時 聖香油ミサ 司祭金銀祝
6	木	聖木曜日(主の晩さん)
7	金	聖金曜日(主の受難、大斎・小斎) 聖地のための献金
8	土	聖土曜日
9	日	復活の主日

【姫路教会】
主日ミサ時間変更
案内・報告
▽7時、10時、15時(英語、
第4日曜日はベトナム語)
※1月より

編集後記

肌寒い沖縄で、キリスト教全派の教誨師70人が集まり、研修会を行いました。沖縄における教誨の歴史を学び、歴史と伝統文化に触れることもでき、充実した内容でした。▼初めての試みであり、コロナ禍も続くなかでしたので、不安や心配はたくさんありましたが、無事に終えることが出来ました。▼二日目、私は少年院の見学に参加しました。沖縄での少年犯罪の特徴を踏まえながら、きめの細かい教育がなされていると感じました。開放的な施設の周りには、脱走を防ぐためのものすごく高い塀がコンクリートをなしています。▼夜の懇親会では、自己紹介で「〇〇刑務所」などが飛び交うので、女将さんが不思議そうな顔をされていました。

(広報委員会 川柳裕明)

3月司教予定

(左記「行事等日程」以外)

- ・18日 大阪聖ヨゼフ宣教修道女会誓願式(+M)
- ・23日 ショファイユの幼きイエズス修道会誓願式(+M)
- ・25~26日 碑文谷教会(東京)黙想会指導(+S)

+M=前田万葉大司教 +S=酒井俊弘補佐司教

WYDリスボン大会2023 公式日本巡礼団

テーマ 「マリアは出かけて急いで山里に向かった」(ルカ1・39)

日程 ①17日間コース: 7/25~8/10
②15日間コース: 7/26~8/9
※羽田空港から出発・帰国となります。あらかじめご了承ください。

年齢 18~35歳
参加費 45万円(予定)
切 4/20頃

詳細とオンライン申込 